

公立大学法人和歌山県立医科大学

令和 3 事業年度の業務実績に関する評価結果

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の令和3事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の令和3年度業務実績に関する年度評価を実施した。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものである。

今回の年度評価は、第3期中期目標期間の4年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価した。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用されることで、より一層、教育・研究・診療それぞれの活動が充実するとともに、法人の業務運営状況に対する県民の理解が深まることを期待する。

令和4年●月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

- 1 総 評
- 2 特色ある取組等

第2 項目別評価

- 1 教育研究等の質の向上
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 国際化
- 2 地域貢献
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 地域の活性化
- 3 業務運営の改善及び効率化
 - (1) 法人運営の強化
 - (2) 人事の適正化・人材育成等
 - (3) 事務等の効率化・合理化
- 4 財務内容の改善
 - (1) 財務内容の健全化
 - (2) 自己収入の増加
 - (3) 経費の抑制
 - (4) 資産の運用管理の改善
- 5 自己点検・評価及び情報提供
 - (1) 評価の充実
 - (2) 情報公開及び情報発信
- 6 その他業務運営
 - (1) 施設及び設備の整備・活用等
 - (2) 安全管理
 - (3) 法令・倫理等の遵守
 - (4) 基本的人権の尊重

第1 全体評価

1 総 評

和歌山県立医科大学（以下「大学」という。）は、県内唯一の医科大学として、本県の先端医療・地域医療を担うとともに、医育機関としての使命を負っており、より良い大学教育と地域医療を推進するため、多彩な取組を精力的に行っている。

令和3年度は、新たに地域貢献を大きな柱の一つとして位置付け、その取組をスタートさせた第3期中期計画の4年目であり、令和2年度の業務実績評価結果を踏まえ、理事長・学長のリーダーシップのもと、全ての分野において職員全員が一丸となって取組み、着実な進展をみせたと認められる。

令和3年度計画175項目の業務実績を確認したところ、2項目が「年度計画を上回って実施している。」、169項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、4項目については、「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、第3期中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。

特に、以下の取組等について評価する。

【教育】

- 医療系総合大学として歩みを進めるなかで、医学部・保健看護学部・薬学部の3学部合同によるケアマインド教育を実施したことについて評価する。
- 新卒者の看護師・助産師国家試験合格率100%を5年連続で維持している点を評価する。

【診療】

- 入院患者の一環した支援を目的に、PFM（Patient Flow Management「入退院時支援」）を立ち上げ、病院長のリーダーシップのもと、病院全体の取り組みとして診療科を順次拡大していることを高く評価する。その成果は数量的なものではないが、今後、その成果を数量的にも示していくことで一層の展開が期待される。
- 医薬品や医療材料について、全国の大学病院等の購入実績を参考に価格交渉を実施するとともに、後発医薬品の導入に取り組んだ結果、約1億7千万円の医療材料費を削減した点について評価する。

一方、以下の点について一層の努力が求められる

【教育】

- 大学院入学者数において、入学者が定員に満たないことから、入学志願者の確保を図る積極的な取り組みを期待する。

【研究】

- 研究成果の民間事業者等への技術移転について、具体的な成果が見られず、特許出願件数及び特許実施等件数いずれも年度計画で定める目標値を下回ったため、改善策を講じられたい。

2 特色ある取組等

【教育】

- 令和3年度に薬学部を開設し、医学部・保健看護部・薬学部の3学部を擁する医療系総合大学として歩みを進めた。3学部体制を契機に、多職種連携教育を更に発展させるとともに、高度医療人教育の充実を図った。

【研究】

- 次世代医療研究センターにおいて、「次世代がん創薬共同研究講座」を設置し、学内研究者・企業等との共同研究が進めた。また、同センター内に、バイオメディカルサイエンスセンターを開設し、胃がん及び膵がん患者の血液、病理組織検体の収集を開始した。

【診療】

- がんゲノム医療について、令和5年4月の「がんゲノム医療拠点病院」指定を目指し、がんの診療体制を充実させるため、所要の体制整備を進めた。

【地域貢献】

- 県内で医師不足が深刻な産科等について、医学部募集枠の一つである県民医療枠を活用し、令和5年度から診療科を指定して学生を募集するための検討を進めた。
- 紀北分院では、地域医療に貢献するため、リハビリ施設を備えた新館の建設及び高度な診療機器の導入等を推進することとした。

【自己収入の増加】

- 令和3年度に青洲基金の寄附金を初めて活用し、附属病院総合案内窓口や入院受付窓口などに「卓上型対話支援システム」を導入し、青洲基金の表示をすることで広く一般の方に周知を図った。

第2 項目別評価

評定の区分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載64事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈医学部、保健看護学部、薬学部〉

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらないなか、対面授業と遠隔授業を織り交ぜながら授業を定着させていることについて評価する。

〈医学部〉

- 単行書年間購入冊数が、年度計画で定める目標値の約2倍となっており、蔵書の充実と図書館機能の強化を図っていることについて評価する。
- スキルラボについて、国の大学改革推進等補助金（感染症医療人材養成事業）を活用し、学生や教職員の臨床技能を向上させるため、所要の整備を行った点について評価する。今後の更なる充実が期待される。
- 基礎医学の科目のなかで、臨床の専門医が一部授業を担当することは、学習の動機を高め、医学の理解を深めることが期待されることから、その取り組みについて評価する。

〈保健看護学部〉

- 入学者選抜試験の形態別に、各年度の成績を追跡調査し、学部課程における成績の要因解析を行っている点について評価する。

〈薬学部〉

- アドミッション・ポリシーに合致する学生確保のため、広報活動を積極的に取り組んだ結果、入試出願者数の増加に繋がった点を評価する。今後、県内からの入学者が増加する取り組みに期待する。

〈大学院医学研究科〉

- 令和6年度の大学院改組に向けて、大学院改組準備委員会を立ち上げ、委員会の開催及び学内説明会を行っている点を評価する。大学の飛躍、組織改革、ブランド力強化の機会でもあり、今後の展開を期待する。

【指摘事項】

〈大学院医学研究科〉

- 令和2年度において、博士課程入学者数が増加し、素晴らしい成果で維持を期待したが、令和3年度では、修士課程及び博士課程いずれも入学者数が定員の50～60%となっているため、広報・経済支援・英語講座の拡大等を含め、必要となる対策に取り組まれない。
- 専門医志向の医師が増加しているなか、臨床系大学院を専門医取得も考慮に入れた魅力的なプログラムとして若手医師に提示する必要があるとあり、総合的な取り組みが必要と思われる。特に、魅力のある大学院プログラムの具体的な対策に取り組まれない。

(2) 研究

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載11事項中10事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 「学術論文奨励賞」「次世代リーダー賞」を設け、若手研究者の研究を推進している点を評価する。
- 組織横断型特定研究助成プロジェクトとして、学部及び講座枠を超えた研究6件に助成するとともに、優れた学術研究を行っている若手研究者に対し、更なる研究の発展を支援するため、若手研究支援助成を9件実施したことについて評価する。

【指摘事項】

- 医学部基礎系の教室の活性化対策が重要な課題と捉え、所属研究者の研究体制の充実や研究支援等の対策に取り組まれていると思われるが、活動評価の実施及び教室の活性維持のため、任期制導入・再任審査導入等についても検討されたい。
- 競争的資金への教員応募率は84%であるが、医学部基礎系の教室に所属する教員については100%を目標として取り組まれない。
- 研究状況を示す重要な指標である英語原著論文発表件数が、ほぼ横ばい状態であるため、更なる発展を期待する。
- 組織横断型特定研究助成プロジェクトにおいて、看護の視点からも参画できるよう取り組まれない。
- URA（研究企画支援組織）が研究者を検索、マッチングし、産官学連携に取り組んでいるが、結果として共同研究等に至っていない。今後も継続して取り組まれない。
- 薬学部開設を契機に、研究面の学部間連携をどのように実現していくのか具体的な対策に取り組まれない。

(3) 診療

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載31事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈附属病院本院〉

- PFM 体制（Patient Flow Management「入退院時支援」）の充実を図るため、14 診療科から 24 診療科に拡大し、入院センターから地域連携部門・各病棟への継続的な支援ができる体制を構築している点について評価する。
- RPA（robotic process automation）を用いて、各種のリマインド通知を行うことでエラーを防止するなど、診療の質の向上に取り組んでいる点について評価する。
- 待合番号表示アプリの導入、健康管理に関するビデオの配信により、待ち時間による患者の負担感の軽減を図っている点を評価する。また、総合受付周辺で院内 Wi-Fi を利用できる環境を整えている点についても評価する。
- 認知症ケアチームや関連するリーダーを配置するとともに、県の認知症疾患医療センター基幹型への指定を受け、県全体の拠点としての機能を担っている点について評価する。
- 診療報酬未収金について、患者支援センターなど院内の各関係部署と連携を図った結果、未収金の残高が大幅に減少している点について評価する。

【指摘事項】

〈附属病院本院〉

- 患者満足度調査結果において、大学病院として不満割合はさほど高くはないが、令和 2 年度より不満と感じている人の割合が高くなっているため、原因を踏まえ改善策に取り組まれない。

〈紀北分院〉

- 総合診療専門研修において、実績が乏しい印象を受けることから、附属病院本院においても総合診療医の育成に関与するなど、積極的に対策を講じられたい。

（4）国際化

【評定】 A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 海外基礎配属短期留学及び海外臨床実習短期留学は、コロナ禍により結果的に中止となったが、その取り組みについて評価する。今後の継続・発展を期待する。
- 海外経験の浅い若手研究者に対する海外派遣支援や若手研究者が代表者として主催する国際シンポジウムに対して助成を行っている点について評価する。

2 地域貢献

（1）教育

【評定】 A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 院内の全診療科における県民医療枠・地域医療枠の新専門医制度での研修、学位取得を含めたローテーション例等を記載した「令和3年度和歌山県立医科大学キャリア形成プログラム」を作成するなど、県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成に積極的に取り組んでいることについて評価する。
- 県民医療枠・地域医療枠で入学した学生に研修等を行い、臨床研修医が県内に定着するよう積極的に取り組んでいることについて評価する。
- 薬学部開設に伴い、薬学部の学生が県内での就職をイメージできるよう、県内薬局等を訪問体験する「早期体験学習」を行うなど、地域医療に貢献できる人材の育成を開始したことについて評価する。

(2) 研 究

【評定】C（やや遅れている。）自己評価

年度計画の記載5事項中3事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 研究成果の権利化に伴う実績が少ないことから、引き続き、知的財産に関する教員や学生の意識啓発に取り組まれない。

(3) 診 療

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 汎用画像診断装置用プログラム「Join」を導入し、患者情報をいち早く医師同士で共有し、迅速な治療に貢献している点を評価する。なお、利用実績についても増加傾向にあるので、今後も利用促進を図ることについて期待する。
- 県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、新生児搬送用ドクターカーにより分娩医療機関からの緊急の搬送依頼に対して、24時間体制で対応していることについて評価する。
- 地域の医療機関では対応が困難な合併症を抱えたハイリスクの患者を対象とした「外来透析センター」を開設したことについて評価する。
- ドクターヘリの出動件数が増えており、広域救急搬送に貢献していることについて評価する。
- へき地医療拠点病院等に指導医や若手医師を配置している点を評価する。この点も含め、地域医療支援センターの積極的な活動についても評価する。
- 地域医療の充実のため、遠隔医療システムを活用することで虚血性心疾患など迅速な患者対応が可能となった点について評価する。

【指摘事項】

- 受診報告書の返信を 100%にすることは容易であるが、より重要な経過報告書及び最終報告書の返書率が 70%余りと低いため、改善策を講じられたい。

(4) 地域の活性化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 県民向け市民講座「最新の医学・医療カンファレンス」をオンラインで開催し、新型コロナウイルス感染症防止や健康管理の重要性などのテーマで講演を動画撮影し、本学 YouTube チャンネルに掲載した点について評価する。今後も継続的に実施していくことを期待する。

3 業務運営の改善及び効率化

(1) 法人運営の強化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 理事長のリーダーシップのもと、経営改善計画に基づく業務運営が着実に実施されていることについて評価する。

(2) 人事の適正化・人材育成等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 男性の育児休業取得率について、中期計画で定める目標値を 13.0%と掲げる一方で、令和 3 年度は 5.8%と目標値を下回っていることから、原因を踏まえ具体的な対策に取り組まれない。
- 離職率（派遣除く）について、中期計画で定める目標値を 4.0%と掲げる一方で、令和 3 年度は 8.6%と目標値を上回っていることから、原因を踏まえ具体的な対策に取り組まれない。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 法人全体の会計事務の効率化を目指し、業務システムやサービスの導入によって業務のデジタル化などを行い、業務変革につなげるため、事務局各課室等で構成するプロジェクトチームを設置し、事務の効率化に係る検討を進めていることについて評価する。

4 財務内容の改善

(1) 財務内容の健全化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 経営改善計画に基づく収入増加・経費抑制・進捗管理に取り組んだ結果、年度計画で定める目標値を大幅に上回る経常利益を確保したことについて評価する。

(2) 自己収入の増加

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載3事項中2事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- プロジェクトを精査したうえで、クラウドファンディング等の手法も積極的に取り入れ、外部資金の獲得に取り組まれない。

(3) 経費の抑制

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 経営改善計画に基づき、医薬材料の価格交渉等による経費の抑制に取り組み、月次・中間・年次決算等の分析により進捗管理を行うとともに、予算編成において内容精査、優先順位に基づく予算配分の重点化・効率化を行っていることについて評価する。

(4) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

5 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 情報公開及び情報発信

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 各所属や診療科等が取り組む教育・研究及び診療情報について、記者発表や資料提供を数多く実施した結果、テレビ・ラジオへの出演のほか、新聞報道で多数取り上げられた点を評価する。また、薬学部開設について、学長や学部長のテレビ出演など積極的に広報を行ったことについても評価する。

6 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 次世代医療研究センター管理運営委員会を立ち上げ、3学部が施設の活用について検討を行っている点について評価する。
- 建物の長寿命化を図るため、長期保全計画に基づき、施設改修及び設備更新を推進している点を評価する。

(2) 安全管理

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 発災時に大学及び附属病院の各所属に必要な情報が迅速かつ正確に伝達できるよう、情報伝達訓練を行い、その結果を踏まえ、連絡系統や連絡先の見直しを図ったことについて評価する。

(3) 法令・倫理等の遵守

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 不正のない大学運営の維持に資するため、定期監査に加え、無通告監査（リスクアプローチ監査）を実施している点を評価する。

(4) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 全職員を対象に「新型コロナウイルスに関する差別を防ぐ唯一の方法」をテーマに全学人権・同和研修を実施し、受講率が100%であった点について評価する。

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略） ◎印は委員長

氏 名	役 職 等
◎ 辻 省 次	国際医療福祉大学大学院・医学部教授
今 中 雄 一	京都大学大学院医学研究科医療経済学分野教授
阪 越 信 雄	紀南病院病院長
坂 本 す が	東京医療保健大学副学長 公益社団法人日本看護協会前会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院名誉院長・参与 市立岸和田市民病院顧問
三 木 義 男	筑波大学客員教授

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和4年7月1日開催
- ・第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和4年8月4日開催

○大学収容定員等（令和3年5月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	600	624
保健看護学部	320	322
薬学部	100	100
医学研究科	196	158
修士課程	18	17
博士課程	142	141
保健看護学研究科	33	37
博士前期課程	23	14
博士後期課程	9	23
助産学専攻科	10	9

○教職員数（令和3年5月1日現在）

総 数（人）	1,837
教員	420
事務職員	175
技術職員	6
現業職員	0
医療技術部門職員	294
看護部門職員	938
研究補助職員	4

（出典）令和3年度和歌山県立医科大学概要